

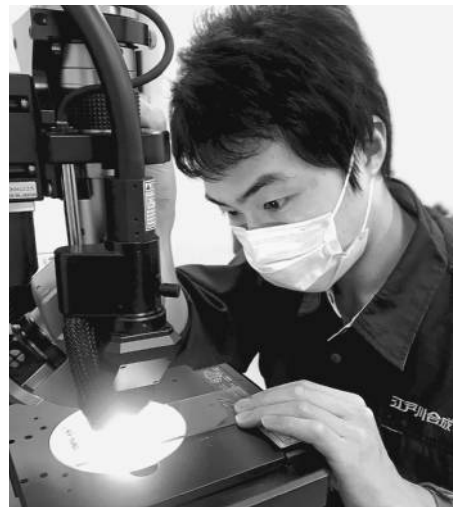
ミドル企業 江戸川合成 導電性塗料を生産

きらり

工業用塗料メーカーの江戸川合成（埼玉県東松山市）は、静電気や電磁波を防ぐ導電性塗料や環境を重視した塗料など、発注量が少なく、大手メーカーが開発や生産に二の足を踏む塗料に強みを持つ。ユーザーの要望にきめ細かく応じる開発力に定評があり、先端技術を塗料で支えている。

帯電防ぎ I o T に貢献 ■ 先端技術で要望応える

新製品開発のため、塗膜のなめらかさをミクロン単位でチェックする（埼玉県東松山市の本社工場）



生産している半導体が動の部品は軽くて成型しやす作不良を起こす恐れがある。これを防ぐため、塗料にニッケルや銅などの金属を混ぜて電気を通ります。これを防ぐため、塗料にニッケルや銅などの金属を混ぜて電気を通ります。これを防ぐため、塗料にニッケルや銅などの金属を混ぜて電気を通ります。

この塗料が導電性塗料の先駆けとなり、同社の知名度を高めた。その後、8年から販売を始めた電磁波シールド塗料は、とりわけ医療業界などで注目を集めた。

例えば磁気共鳴画像装置（MRI）を設置する部屋は、電磁波を防ぐために壁に金属の箔を張る必要がある。箔を張る作業には手間と費用がかかる。だが塗料は塗るだけで済むため、大幅なコスト削減につながる。

帯電や電磁波に悩んでいる企業は電機関連メーカーだけでなく、電子化の進む自動車業界など多岐に及ぶ。例えば樹脂製

《会社概要》
埼玉県東松山市
工業用特殊塗料の生産
1935年
約40人
約10億円
(2020年3月期)

て、製品の品質を保証するISO9001と環境配慮のISO14001の認証取得を目指した。「当社の常識は世界の非常識」という発想で臨んだ」と篠原社長。全部門の認証は09年に取得した。ISOを取得すると、定期的な更新審査があるので、自社の取り組みをチェックする習慣もつく。

社内の風土を変えて若手の育成をシステム化したことで、安心して若手を採用できるようになった。13年には導電性塗料などの海外での需要増加に伴い、タイに生産子会社を設立した。

家庭や自動車などあらゆるモノがネットにつながる「IoT」が広がる中で、機器の誤作動につながる電磁波ノイズや帯電防止は重要性が増す一方で。同社は塗料分野でIoTの普及に貢献していく。

半導体製造装置が電気を帯びると、その装置で

同社は1935年に創業し、ニスや木材、金属用の一般的な塗料を生産してきた。導電性塗料に専出したのは、87年に大手半導体製造装置メーカーから「帯電防止塗料をつくれなにか」と持ちかけられたのがきっかけだった。

松田隆（さいたま支局長）